

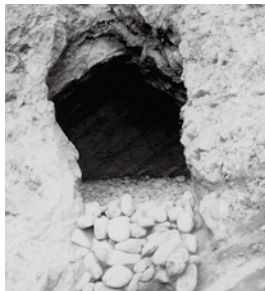
▼ B 群第 1 号墳内部の副葬品の出土状況



▲ A1 号墳の現状



▲ B 群第 1 号墳の副葬品



▲ B 群第 1 号墳の全景



埋蔵文化財包蔵地 **殿ノ平横穴群**

History

キラリを再発見

敷石が敷き詰められた横穴

殿ノ平横穴群は、新野川左岸の篠ヶ谷観音堂の裏山に位置しています。

平成12年11月に、地主から山の斜面の木の根を取ったら穴が開いたとの連絡があり、確認したところ、横穴であることが判明しました。そして、平成15年2月12日から3月26日にかけて、発掘調査が実施されました。

調査の結果、平面形はフラスコ形、断面がドーム状の横穴で、入口部分上部の天井は崩落していましたが、入口から奥行1.4mの範囲に3~4段の閉塞石が残存しており、横穴の内部には敷石が二重に敷き詰められていました。

副葬品としては、7世紀代の須恵器や土師器が出土しています。

この横穴内部の西側壁に貫通した穴が見つかり、もう1つ横穴が西側に隣接しており、群を形成していることから、最初に発掘調査した横穴をB群第1号墳、西側の横穴をB群第2号墳としました。また、B群から少し離れた場所に以前から穴が開いている所があり、これも横穴と確認されたため、A1号墳としました。

照会 社会教育課 ☎0548③1129

中部電力は9月25日、浜岡原子力発電所3・4号機の新規基準に適合させる追加対策を取りまとめ、4号機は2015年9月末、3号機は2016年9月末の完工を目指して実施すると公表しました。あわせて原子力規制委員会へ、本年度中に4号機の規制基準への適合性に係る申請ができるよう準備していくと発表しました。

新規規制基準を踏まえた追加対策は15項目に及びます。地震の揺れに耐える配管のサポートや地盤改良、斜面の補強工事を実施するほか、竜巻、火災への対策も強化します。複数機器の故障を想定した炉心損傷防止、放射性物質の拡散抑止対策も実施することとしています。

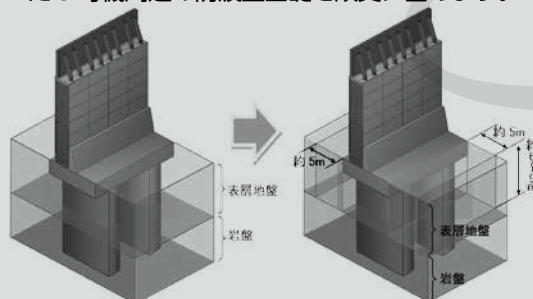
地震動は、内閣府の「南海トラフ巨大地震モデル検討会」

の状況を踏まえ、内閣府モデルで最大1000ガルと評価した敷地内の改造工事用地震動を1200ガル、最大1900ガルと評価した5号機周辺への揺れの増幅を考慮した改造工事用増幅地震動を2000ガルと設定し、揺れに対する工事が必要かを検討したものです。

なお、5号機は引き続き検討を重ねていきます。

【追加対策工事の一例】

・防波壁地盤改良工事
2009年8月の駿河湾の地震で揺れが増幅した5号機周辺の防波壁基礎を頑丈に固めます。



Atomic

暮らしと原子力

新規規制基準を踏まえた追加対策